小学生の部　『やまなし』①　宮沢賢治

ナレ①：小さな谷川の底を写した二枚の青い幻燈です。

ナレ①：一、五月

ナレ①：二疋の蟹の子供らが、青じろい水の底で話していました。

カニ兄：『クラムボンはわらったよ。』

カニ弟：『クラムボンはかぷかぷわらったよ。』

カニ兄：『クラムボンは跳ねてわらったよ。』

カニ弟：『クラムボンはかぷかぷわらったよ。』

ナレ①：上の方や横の方は、青くくらく鋼のように見えます。
そのなめらかな天井を、つぶつぶ暗い泡が流れて行きます。

カニ兄：『クラムボンはわらっていたよ。』

カニ弟：『クラムボンはかぷかぷわらったよ。』

カニ兄：『それならなぜクラムボンはわらつたの。』

カニ弟：『知らない。』

ナレ①：つぶつぶ泡が流れて行きます。
蟹の子供らも、ぽっぽっぽっとつづけて五六粒泡を吐きました。

ナレ①：それはゆれながら、水銀のように光って斜めに上の方へのぼって行きました。
つうと銀のいろの腹をひるがえして、一疋の魚が頭の上を過ぎて行きました。

カニ兄：『クラムボンは死んだよ。』

カニ弟：『クラムボンは殺されたよ。』

カニ兄：『クラムボンは死んでしまつたよ……。』

カニ弟：『殺されたよ。』

カニ兄：『それならなぜ殺された。』

ナレ①：兄さんの蟹は、その右側の四本の脚の中の二本を、弟の平べったい頭にのせながら云いました。

カニ弟：『わからない。』

ナレ①：魚がまたツウと戻って下流の方へ行きました。

カニ兄：『クラムボンはわらったよ。』

カニ弟：『わらった。』

ナレ①：にわかにパッと明るくなり、日光の黄金は夢のように水の中に降って来ました。
波から来る光の網が、底の白い磐の上で、美しくゆらゆらのびたりちぢんだりしました。

ナレ①：泡や小さなごみからは、まっすぐな影の棒が、斜めに水の中に並んで立ちました。
魚がこんどはそこら中の黄金の光をまるっきりくちゃくちゃにして、おまけに自分は鉄いろに変に底びかりして、又上流の方へのぼりました。

カニ弟：『お魚はなぜ、ああ行ったり来たりするの。』

ナレ②：弟の蟹がまぶしそうに眼を動かしながらたずねました。

カニ兄：『何か悪いことをしてるんだよ、とってるんだよ。』

カニ弟：『とってるの。』

カニ兄：『うん。』

ナレ②：そのお魚が、また上流から戻って来ました。
今度はゆっくり落ちついて、ひれも尾も動かさず、ただ水にだけ流されながら、お口を環のように円くしてやって来ました。
その影は黒くしずかに底の光の網の上をすべりました。

カニ兄：『お魚は……。』

ナレ②：その時です。
俄に天井に白い泡がたって、青びかりの、まるでぎらぎらする鉄砲弾のようなものが、いきなり飛込んで来ました。
兄さんの蟹は、はっきりとその青いもののさきがコンパスのように黒く尖っているのも見ました。
と思ううちに、魚の白い腹がぎらっと光って、一ぺんひるがえり、上の方へのぼったようでしたが、それっきり、もう青いものも魚のかた

ちも見えず、光の黄金の網はゆらゆらゆれ、泡はつぶつぶ流れました。

ナレ②：二疋はまるで声も出ず居すくまってしまいました。

お父さんの蟹が出て来ました。

カニ父：『どうしたい。ぶるぶるふるえているじゃないか。』

カニ兄：『お父さん、いまおかしなものが来たよ。』

カニ父：『どんなもんだ。』

カニ兄：『青くてね、光るんだよ。はじがこんなに黒く尖ってるの。それが来たらお魚が上へのぼって行ったよ。』

カニ父：『そいつの眼が赤かったかい。』

カニ兄：『わからない。』

カニ父：『ふうん。しかし、そいつは鳥だよ。かはせみと云うんだ。大丈夫だ、安心しろ。おれたちはかまわないんだから。』

カニ弟：『お父さん、お魚はどこへ行ったの。』

カニ父：『魚かい。魚はこわい所へ行った』

カニ兄：『こわいよ、お父さん。』

カニ父：『いいいい、大丈夫だ。心配するな。そら、樺の花が流れて来た。ごらん、きれいだろう。』

ナレ②：泡と一緒に、白い樺の花びらが天井をたくさんすべって来ました。

カニ弟：『こわいよ、お父さん。』

ナレ②：弟の蟹も云いました。

ナレ②：光の網はゆらゆら、のびたりちぢんだり、花びらの影はしずかに砂をすべりました。

配役

ナレーション①　・・・A

ナレーション②　・・・B

カニ兄①　・・・C

カニ弟①　・・・D

※選考の結果、配役を決定します。

カニ父　・・・渡部陽一